アーティスト・ステイトメント

頭の中のイメージを視覚的に自身が確認する為に作品を制作している面があり、作品が他者の目に触れることにより、みる人にどのように映るのか、感じるのかを確かめる為に今回の展示を企画しました。

人は寝ている時に夢をみ、夢から目覚めてもそれを記憶していることがあります。普段から無意識、意識の中で蓄積された視覚情報が夢として映画の様に展開されていきます。支離滅裂な場合や唐突に出てくる物や人など、記憶とリンクする場合や、時間が経過し夢の記憶が過去となった後、現実に正に夢の中でみた情景を目の当たりにし、正夢であったことに気付いたりします。夢の中では、思い通りにはいかないことは多いし、夢の中でこれは夢だと気付かないことの方が多い。思い通りにはいかないイメージの海を漂う様に、昼間に休憩を取る昼寝の時間の様に、時に苦しみ、時に和やかに穏やかに過去と現在と未来に向き合いながら、絵を描いて生きたい。

展覧会コンセプト

内在するイメージの断片（サブタイトル）

顔というパーツに惹かれる。情報量が多いことに加え、笑顔や困った時の顔など、感情が視覚的に確認できるのも魅力の一つです。皮膚や骨で覆われている脳内での変化を視覚的に確認することが出来る為、興味深い。

今まで生きてきて実際に会ったことのある顔や表情、バーチャルでみた顔など、記憶に残っている顔はたくさんあります。その中で絵におこしたイメージの断片を今回は発表します。

ドローイングに関して

抽象的なドローイングに関しては、無意識と意識の間・線の反復をコンセプトとし、自分の内面を視覚で確認すること、鬱屈した感情を昇華することを目的として描いている。キャラクターや人物を描いたドローイングに関しては、1990 年代～ 2000 年代初めのファッション雑誌、1980 年代終わり～ 1990 年代のアニメ・漫画などの影響がある。

経歴

作家名 : ひるねねるひ

1985 年生まれ
2008 年　京都造形芸術大学（現　京都芸術大学）　情報デザイン学科　卒業

大学卒業後、福祉施設で事務、製品の販売などの仕事を経て
食品などを取り扱う会社のカタログデザインの仕事に携わる。
その後、コマーシャルギャラリー、レンタルギャラリーの仕事に携わる。

2022 年 4 月　ART SPACE ごろごろをオープン。
2022 年 11 月　個展『実験的ドローイング』ART SPACE ごろごろ（京都）
2023 年 7 月　個展『Daily Conversation』ART SPACE ごろごろ（京都）
2025 年 7 月　個展『ひるね』ART SPACE ごろごろ（京都）
2026 年 5 月　ART SPACE ごろごろリレー展　参加　ART SPACE ごろごろ（京都）
2027 年 1 月　個展『顔 -Face-』ART SPACE ごろごろ（京都）

現在、ART SPACE ごろごろの運営の傍ら、作品を制作している。